1986_初めて学ぶ心理学_名城嗣明・東江平之_ナカニシヤ出版P183-185

第2節　恋愛と結婚

1.　エロスの愛とアガペの愛

エロスの愛とは“求める愛”である。愛する相手を身体的・情緒的に欲する愛で，相手と一緒にいたい，接触したい，独占したい，愛されたい，という自己中心的な愛である。エロスの愛と対照的に考えられるのがアガペの愛である。アガペの愛とは“与える愛”である。“母親の子どもに対する愛”とか，“神の人間に対する愛”など，精神的，観念的色彩の強い愛である。エロスの愛が自己中心的であるのに対し，アガペの愛は他者中心的，あるいは愛他的行動としての愛といえよう。エロスの愛とアガペの愛は対立するものでなく，2つの愛の調和のとれた形こそ真実の愛というべきであろう。

2.　恋愛と結婚

かつては恋愛と結婚は切り離せないものとして考えるのが一般的であった。しかし，現代では，恋愛と結婚は必ずしも結びつくものではないとする意識の変化がある。恋愛と結婚に対するこのような意識の変化があるとしても，恋愛が“情熱”“精神的動揺”“相手に対する過大評価”など，非現実的，ロマンティックな色彩を特徴とし，一方結婚が“静かで深い愛情”“精神安定”“相互の理解と信頼”などを特徴とすることに変わりはない。また，恋愛が，人間1人ひとりにとって，きわめて重要な意義をもつことにも変わりはない。恋愛は精神的浄化や精神的成長のために重要な経験であり，結婚は人間の生涯においてきわめて自然なことであるといえよう。

3. 結婚の相手に求めるもの——対人市場

詫摩武俊（1973）は，結婚相手を選ぶ場合に「非常に重視する」，「かなり重視する」，「ほとんど重視しない」，「まったく重視しない」の4つの基準を設定し20項目の回答結果をまとめた。それによると男性・女性の双方とも“性格”“愛情”“健康”の3つを1，2，3位に選び最重要視している。ところが，選択順位（選択率の高い順位）4位以下には性差が明白に表われている。男性が女性の“顔立ち”“スタイル・身長”“頭のよいこと”を重視しているのに対し，女性は男性の“収入”“学歴”“両親の賛成”を重視している。男性は結婚相手が“頭が良くて美人であること”を望み，女性は相手の“収入と学歴”に価値をおく。男性が女性の収入と職業をまったくといってもよいほど重要視していないことを考え合わせると，女性は，この調査でみる限り“男性への依存傾向”が強いといえよう。

4. 変わる結婚観——結婚を望まない女性の増加

総理府広報室の「婦人に関する世論調査」（昭和54年）および「婦人に関する意識調査」（昭和47年）の調査結果（国民生活白書，1984）によると，男性の場合，結婚を望む者が昭和47年の63.5%から昭和54年には67.6%と増えたのに対し，女性は同時期に67.8%から62.3%に減少している。結婚を望まない者の率は，男性の場合同期間中ほとんど変化していない（1.2%増）が，女性は，13.6%から24.6%へと11%の増をみせている。つまり，女性は4人のうち1人が結婚を望まないことになり，女性の意識の変化がうかがえる。

5. 何のために結婚するのか——結婚の目的

総理府広報室の調査（図13-1）をみると，結婚を望む理由として，男性では「社会的に安定するから」（23%），「結婚するのがあたりまえだから」（22%），「精神的に安定するから」（19%）の3つに集中している。一方女性では「精神的に安定するから」（23%），「結婚するのがあたりまえだから」（22%）という理由のほか，「結婚すれば幸福になれるから」（12%），「経済的に安定するから」（11%），「まわりがうるさいから」（11%）でも高く，どちらかといえば男性よりも分散的であるといえる。また，女性は男性に比べ“他律的で依存性が

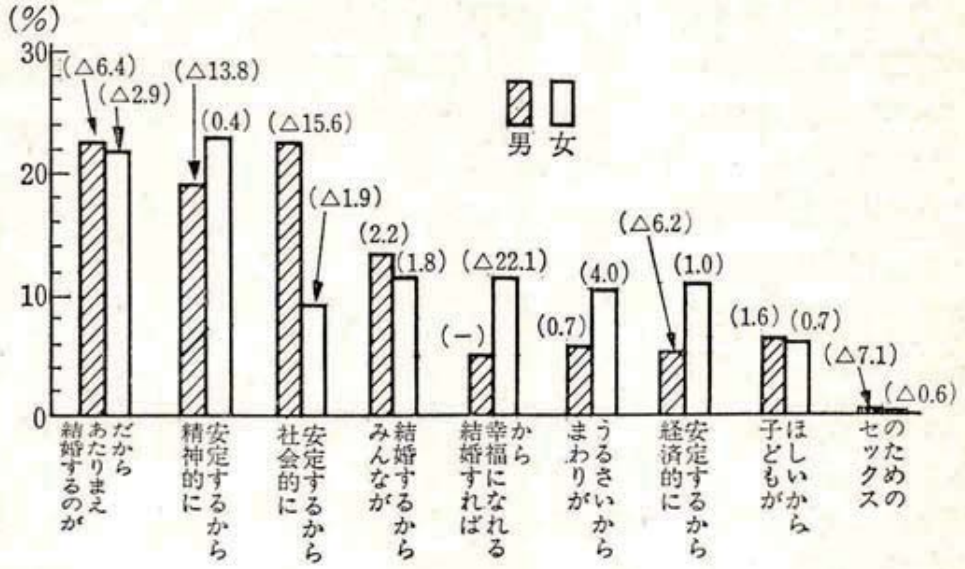

図 13-1　結婚を望む理由（昭和58年版「国民経済白書」）

（備考）1.　総理府広報室「婦人に関する世論調査」（54年5月），「婦人に関する意識調査」（47年）による。
2.　結婚を望むとするものに対する複数回答である。
3.　（　）の数値は47年調査と比較した増減幅（%ポイント）である。

強い”ともいえよう。

昭和54年と昭和47年の調査結果を別の視点からとらえてみると，男性は「社会的に安定するから」と「精神的に安定するから」がそれぞれ15.6%，13.8%も減少し，女性では「結婚すれば幸福になれる」が22.1%減少している。このことは，男性の場合は，一人前の人間についての社会通念が変わってきたこと，一方女性の場合は自立を主張するようになったことを示唆する。

全体として結婚を望む者の率は高い（男性約7割，女性約6割）が，女性においては高学歴化，就職率の上昇にともなう自立能力の高まり，結婚が幸福へつながるといったロマンティックな考え方の衰退などにみられるように，結婚に対する意識の変化が進みつつあることがうかがえる。“結婚するのがあたりまえ”という社会通念もやがては色あせてしまうかもしれない。

愛や結婚や性に対する意識の変化，性役割の概念の変化，性差の縮小など，現代は，男と女にまつわる諸概念，諸現象の一大変革期であるといえよう。

引用文献

Broverman, I. K. et al.　1972　Sex-stereotypes : A current appraisal. *Journal of Social Issues*, 28(2), 59–78.